

退官



同僚と協力して英語教員として
卒業生を数多く
世に送り出すことができました。

退任にあたり

教育人間科学部教授
米山 朝二



遠方からの来訪者が一切ならず口にした言葉が2つあります。1つは「キャンパスが広いですね」です。夏であれば「海が見えていいですね」と日本海を見渡して感嘆します。私は「佐渡も見えますよ」と言葉をつなぎ、時には研究室よりもっと眺望の開ける教室に案内することもありました。もっとも、このところの建設ブームで「広い」が「狭い」に代わるのもそう遠くないかもしれません。それはそれで、大学の繁栄を意味すると解釈すればよいことでしょう。

もう1つは「こちらの学生さんは親切ですね」です。「教育はどこですかと尋ねたら、玄関まで案内してもらった」と感謝されたこともあります。最近、構内の案内板が完備したのでわざわざ学生に尋ねる必要もなくなったのか、あまりこの言葉を聞くことはなくなりました。しかし、親切な学生の数が以前同様であることを信じています。

新潟大学に勤めてから34年になります。この間、振り返ってみると、期せずして、かなりの頻度でこの地から英語教育の情報を全国に発信する機会を得たことになりました。また、同僚と協力して英語教員として卒業生を数多く世に送り出すことができました。ささやかであっても、こうしたよい思い出とともに本学を去ることを有り難く感じております。大学のさらなる発展を願い、感謝の言葉といたします。

ありがとうございました。

地球はふるさと

教育人間科学部教授
田中 祐次



私にとってこの新潟大学は4つ目の勤務校でした。大学教師として初めて勤務したのはお隣の県でもある長野県の信州大学の教育学部でした。すでに28歳でしたが、戦争中子ども時代に疎開で東京を離れたことしかない東京生まれの東京育ちの私にとって、東京を離れての地方の生活はいろいろな意味で新鮮でした。

勤めて11年目に得た在外研究の機会は私の人生にとってさらに大きな衝撃を与えるものでした。私の専攻分野である集団心理学はもともとは社会心理学に属する分野で、社会心理学的に世界を見ることにはなれているはずだった私でしたが、私にとってそれは初めて「地球を見た」と等しい経験でした。帰国後私は誘いに乗り当時初めてといわれた文科系の「情報学部」を開設した文教大学に勤務することになりました。2つ目の大学でした。大学間人事交流の促進に協力することも考え、また異なる世界を経験したいという好奇心にも誘われ、その後鳴門教育大学をへて4年前この新潟大学にご厄介になったわけですが、はからずもこの新潟の地は私の両祖父誕生の地でもあり、私の中のDNAが私をこの地に呼び戻したような感じをうけました。し



かし今、私にとってはこの日本が私のふるさとなろうとしています。どこへ行っても私を親しく受け入れて下さったたくさんの方々がおられました。その方々に私は心から感謝しています。有り難うございました。

学窓

経済学部教授
横山 和彦



私の研究室からは日本海が臨め、そのさきに佐渡がみえる。海に落ちる夕陽は、太平洋側ではあまりみることができない。授業の終わったあとノドを潤しながら、海に沈む夕陽をみることは、まことに爽快である。このことを16年間楽しんできた。このようなことができた研究室は、冷房がなくても世界一である。この研究室をさることは、大変さびしい。

私は、社会保障、社会政策を大学卒業以来研究してきた。学窓のなかの生活しか経験していない。私の研究は、いわば講壇社会保障・社会政策であろう。

資本主義社会の最大の社会問題は、失業である。その失業が、10年余も国民経済そうして国民生活を脅かしている。ところが、最近経済学、社会保障の中心になっている学派は、失業問題にかんする意識が軽薄である。社会保障は、完全雇傭を生存保証の絶対的的前提条件としている。このような学統の確立を試みたいものである。

東京生まれの東京育ちの私にとって、東京を離れての地方の生活はいろいろな意味で新鮮でした。


退官にあたって

理学部教授
宮野 和政



1969年4月に東京大学理学部より新潟大学理学部物理学部に赴任以来34年が瞬く間に過ぎてしまいました。当時、物理学は拡充組織が将に始まったところで学科の志気がとても高く雰囲気は開放的で、私は新鮮な気持ちで新設間もない歯学部新入生への初等物理学の講義を受け持ちました。当時、新潟大学は理論実験両面で原子核物理学を志向する唯一の新制大学でした。その新潟で原子核実験物理学を専攻することに気持ちを高揚させ、大学院生と共に力一杯働きました。それも時経てマンネリズムを感じるようになり、1979年に高エネルギー実験に研究分野を移しました。その最初の実験で核子が溶けた宇宙初期の状態を実現したかもしれないと思われる結果を得て幸先のいい出発をしました。ついで陽子崩壊という大きなテーマでカミオカンデの装置を建設しました。1987年超新星爆発のニュートリノ観測に成功した時には建設の苦労も喜びと興奮で吹き飛んでしまったことを今も鮮やかに思い出します。これがリーダーであった小柴さんへの2002年ノーベル物理学賞受賞となったことは、退官直前の私への大きな贈り物でした。

清潔で整った新潟市、瀟洒な農村風景...と自然の豊かな新潟で多くの志気の高い学生と同僚の先生方に恵まれたことは感謝しても感謝しきれません。これら学生諸君や諸先生方に支えられた研究と教育の経験は次の新しい生活へ飛び込む私の勇気となっています。



自然の豊かな新潟で多くの志気の高い学生と同僚の先生方に恵まれたことは感謝しても感謝しきれません。



この研究室をさることは、大変さびしい。